

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( ~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	メリーライフ株式会社 グループホーム里の家千歳 ラベンダー	評価実施年月日	平成21年5月1日
評価実施構成員氏名	野坂 栄子 大中学 長谷田 知彦 田中 真智子 當摩 尚子	葛西 良美 小野寺 靖子	
記録者氏名	野坂 栄子	記録年月日	平成21年5月1日

北 海 道

(様式1)

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	理念は法人の運営方針にも深く繋がる部分である為、その理解と推進には常々指導教育を徹底しているが、入居されている全ての方の暮らしがより良いものとなるよう、今後も更にサービスの充実を図っていく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	日頃の取組みや関わりについて理念に沿った内容の実践がなされているか、評価や見直しを定期的に行なっていく。また、新しいスタッフもいるため、管理者からは今後も必要に応じ理念に沿ったアドバイスを継続していく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	地域の方に過度の宣伝行為と受取られない程度で定期的な町内の集まり等で説明を行っている。また、ホーム内の見学案内の際にも理念について触れ、ホームの目的や機能についても説明を行っている。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	ホームの畑で採れた野菜を配ったり、地域の方も参加できる行事を立案する等して、ホームが地域にとけ込み身近な場所と感じて頂けるような雰囲気作りをしていく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	散歩へ出かけ挨拶を交わしたり、入居者様と一緒に地域の資源庫に資源物を出しに行くなどを日常的に行っている。今後も地域の行事や活動に積極的に参加するよう心がけ、地域とホームとの交流を深めていく。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	○	現状では事業所内の質向上と環境整備を推進する事が当面の目標としているが、これらについての更なる向上が地域貢献に直接繋がると考え今後も意欲的に取り組んでいく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、常に評価結果について改善向上意識が持てるよう各種会議でも評価項目を取り上げ、改善検討が成されている。取り上げられた項目について職員各自が自分のケアについて評価することで、意識の向上や現状の改善に繋がっている。	○	全体会議等でも各ホームの比較等を行っており、切磋琢磨出来るよう情報交換の場を設けている。外部評価での指導項目については、ホームとして、ユニットとして、各職員としてどのように受けとめ改善していけばよいか検討し、具体的な改善を目指している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の開催をしており、各関係者様方との話し合いも円滑で実りあるものとなってきている。グループホーム全般の役割や細かな取組みに至るまで理解が深まりつつある。	○	話し合いの中で挙げた様々な意見を更に積極的に実施し、近隣への参加呼掛け等も推進していく事で運営推進会議の内容が実際に活かされている事を知って頂くよう努めていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携について、本部職員が担当窓口として主な働きかけを行っており、その時々により事業所管理者等も行き来している。	○	今後も更なるサービス向上について市町村より意見を伺い、それらの意見を柔軟に受取り活かして行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在制度を利用されている方はいないが、制度の内容等について職員理解を深める努力はしている。最近では、外部の研修で権利擁護について学ぶ事が多く、その内容周知にも努めている。	○	今後それらの制度を利用したいという入居者様が出て来られた際に、スムーズな活用への支援、適切な対応が出来るよう今以上に全職員の理解を深めていく必要がある。その為に都度の会議や研修参加等で知識を得られるよう努めていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本部及び管理者より高齢者虐待の定義やその内容詳細について各会議で都度説明行っており、入居者様が外泊等された後にも身体確認等行う事で、ホーム内外での虐待防止に努めている。	○	今迄に虐待の事実はなく、ホーム内での安心した生活の支援を行えているが、今後更に諸対応に注意し虐待防止に努めていく。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間を掛け各項目について説明しているが、契約前にも不安や疑問について解消出来る様、支援している。入居申込みを受ける前に必ずホーム内見学案内も実施し、その際にはホームの各所を見て頂くだけではなく、日常生活の様子やケアの内容についても説明している。	○	利用される事での利点は勿論であるが、リスクについても十分説明し納得された上での入居を推進していく。グループホームの役割や機能について更に深く説明する事で理解を深めて行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	小さな訴えや不満等にも耳を傾ける姿勢をとっており、明らかに苦情と思われる事は速やかに所定書式にて管理者及び本部に提出し、迅速丁寧な解決に取り組んでいる。	○	現在苦情と捉えられる訴えはないが、今後継続して訴えを汲み取る姿勢で対応を行っていく。また、日頃から入居者様が職員に意見や希望を言いやすい関係を作っていけるよう関わりを深める努力をしていく。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や定期的な電話連絡、月に1度送付する里の家だよりを通じて、入居者様の日常の様子をお伝えし、常に入居者様の現状を理解・把握して頂くよう努めている。金銭管理については使用の都度、ご家族様に報告し、毎月出納帳・領収書を送付し、内容を明らかにしている。	○	ホームの生活や入居者様の状況を知って頂く事で、ご家族様の理解や協力も得られている。今後もご家族様とのコミュニケーションを深め、ホームでの入居者様の様子をより分かりやすくお伝え出来る様努める。また、写真やビデオを利用して生活の様子を知って頂く工夫もしていく。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設ける事で、話しづらい事への配慮を行っている。また、相談窓口への電話回線も設けており、受入体制を整えている。	○	家族様からの意見や苦情、不満等については本部に相談窓口を設けているが、面会時等に聞かれた訴えについても記録として残し対応検討する流れが出来ている。日頃からの希望に迅速に対応する事で苦情になる前に解決できるよう今後も同様の流れと対応を継続していく。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員意見の反映については、毎週定期的に本部職員が現場に入り各種会議の際及び日常業務の中で聞き取りを行い、その内容について本部で検討された後、必要と判断されたものについて反映されている。	○	入居者様の生活上必要な物品等の設備に関する職員意見が殆どであるが、随時改善対応行っており、より生活し易い空間作りにも努めている。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	特に入居時には、管理者及び計画作成担当者が勤務に当たるよう調整を行っており、それ以外の特変時についても必要な範囲内でシフトの組み換えを行う事もある。しかし、普段日常については全職員が同一の対応が取れるよう指導教育している為、勤務変更はない。	○	現状として入居者様の状態に合わせた職員配置は難しいと考える。しかし、全職員が可能な限り同一の対応を行える様教育する事で、ケアの質の向上を目指している。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に職員異動は極力無いよう勤務調整行っており、馴染みの関係作りの妨げとならないよう配慮も行っている。	○	職員の急病等の止むを得ない場合に限り一時的な異動はあるが、普段よりユニット間の交流も盛んである事から、ホーム内全ての職員と入居者様が顔馴染みの関係を築けている。今後ホーム全体の交流機会を持っていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修及び外部研修の受講推進を行っており、勤務上受講が出来なかった職員についても後日資料の配布等で、内容周知が成されている。また、本部職員による助言指導等も随時行なわれている。	○	職員の指導教育は基本的には管理者、計画作成担当者を主としているが、方針の理解や制度的な事項については、本部職員からも会議等を通じ常時職員周知が出来る。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村が主催する管理者会議や、事業所が加盟している協議会が主催する研修会等に積極的に参加する事で同業者との意見交換等が行われている。	○	守秘義務等の兼ね合いもあり中々具体的な内容までは意見交換はなされないが、互いに困っている事や職員の質向上について同じ目線で話し合える関係を築いていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	互助会の設置を行い忘年会や新年会等の実施を行っているが、その頻度は十分とは言えず、職員の日々のストレス軽減等については今後の課題でもある。また、ハード面については建物構造上、職員がくつろげる空間の確保が難しく、それに伴う必要物品についても検討されている。	○	今後、互助会だけでなく職員意見が更に聞き入れられる機会を本部で設けていく。スペース的な問題は理解出来る為、その他の環境整備等で休憩時間のストレス緩和に努める。また、日頃からストレスを溜め過ぎずに、職員が意欲を継続できるように業務の見直しや労働環境の改善に努めていく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の経験年数や資格取得に応じて賃金に反映する事で向上心に繋げている。また、それ以外の日常業務内での取り組みや個々の成長過程等も確認し、能力を伸ばせるよう個別指導教育も行っている。	○	職員個々の評価を判断する為、日々定期的に本部が現場状況の確認を行っており、職員の努力や勤務姿勢について把握出来るよう努めている。また、向上心に繋がるよう多種研修会等への参加も推進している。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前の面談及び見学案内の際に不安な事や希望についても可能な限り聞取るよう努めており、本人様以外の親族の方にも情報提供依頼をし、本人様との関係が早期に身近なものと感じられるよう努めている。	○	家族様と離れ独居及び入院されていた方の希望等の聞取りには困難を極める事もあるが、入居されてから密に関りを持つ事で情報収集し、それにより得た希望等を可能な限り早期に実現し満足感、安心感に繋げる努力をしている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	現在まで殆どの場合が事前の見学案内及び面談等で納得の上、安心して申し込まれており、その後の本人様の生活や職員対応について事業所側に任せて頂けている。また、些細と思われる出来事についても都度連絡する事で更なる安心感に繋げる努力をしている。	○	初期に築けた信頼関係をより深められるよう、今後も密な連絡体制を継続し、本人様の生活風景や職員対応の疑問点等についても伺っていく。また、家族様の意見を受けとめ、共感する姿勢で関わり、安心してサービスを利用して頂けるよう努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様とご家族様の希望が一致しない場合もあるが、その際は職員も含めた三者間で話し合いを持つよう努めている。支援の優先度についてもケアプラン上でも説明行い、専門的な見地からもご家族様にアドバイスしながら決定している。	○	相談時にはまず、本人様及びご家族様にグループホームが自立支援の場である事の理解を深める事に努めており、それらの理解を基に優先的な支援について希望を聞取っている。今後も初期対応を見極め、その後の入居者様の生活がより安定し充実したものになるよう支援していく。
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人様が安心感を得られる対応や環境について、本人様及びご家族様、諸関係者様より情報収集行い、早期に馴染みの関係が築けるよう努めている。本人様が納得されるまでに時間が掛かるケースもあるが、ご家族様にも外泊や外出等のご協力を頂き対応している。	○	入居後しばらくは緊張や不安を抱えて生活されるであろう事や、人それぞれ新しい環境に馴染むまでにかかる時間、周囲との距離のとり方等には差がある事を理解し、本人様にとって無理のないペースでホームでの生活に馴染んで頂けるよう支援していく。ご家族様の理解・協力を得て対応する事で本人様の安心感に繋げていく。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理、裁縫、畑仕事等の場面で、入居者様に教えてもらいながら一緒に活動する事や、人生の大先輩として多くの事を学ぶ事で、共に支えあったり楽しんだりする関係を築いている。また、常に入居者様の気持ちに寄り添い、喜びや悲しみを共有できるような接し方に努めている。	○	入居者様が役割や生きがいを実感できる場面を多く作り、ともに支え合う関係作りをしていく。また、職員は単に介護をする存在ではなく、日々生活を共にし心から分かり合える身近な存在と感じて頂けるような関わりを持つよう努める。
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	事業所側の対応として細かな情報伝達をご家族様に行う対応を継続しているが、各ご家庭の事情もあり全てが円満であるとは言えない。しかし、多種行事の呼掛け等で本人様と関わり合える機会の提供にも努める事で、関係が深まったケースもある。	○	入居時やその後のご家族様からの情報提供やケアへの協力により、ホームでの対応がよりスムーズになったケースも多い。職員だけでは難しいと思える事がご家族様と共に本人様を支援する事でより充実したケアに繋がり、共に支え合う関係だと実感できている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	事業所側は第三者という立場であり、深く踏み込めない事情も多々あるが、間接的にでも本人様とご家族様との距離が縮まるよう取組みを行っている。	○	ご家族様には伝わらない本人様の思いや意向を職員が汲み取り、分かり易く説明する事で少しでも関係の改善を推進していく。また、最良の関係、距離感を維持して頂く為にも、これまでの経緯や関係について出来るだけ正確に理解するよう努める。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所をよく知ること努め、その関係が途切れないように連絡を取ったりその場所に出掛けたりする機会を設けるよう努めている。その際の情報収集や実際に外出等行う場面ではご家族様の協力を得ながら支援している。	○	直接連絡を取る事が難しい場合や外出等が困難な場合は、馴染みの人や場所の現状等についてご家族様より入居者様に伝えて頂く等しており、日常的な会話の中で関係が途切れない工夫をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様同士助け合い、思いやりの気持ちを持って生活できる様日頃から言葉にして伝えている。自然と仲良しの関係が出来ている為、積極的に他者と関わらない方には交流の機会を作り、皆が楽しく過ごせる様配慮している。ユニットは温かく家庭的な雰囲気が感じられ関係は良好である。	○	この一年で数名の入居者様の入退居があった為、入居者様同士の関係作りには配慮し、自然な形で仲が深まるよう支援している。また、相性の良い悪しはあるが、不思議と共に暮らす仲間という意識が芽生えてくるようで、全体としてまとまりがあり孤立していると感じられる方はいない。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居となられる際には事業所側で次の行き先について責任を持ち支援させて頂いており、退居された後もご家族様が遊びに来て頂ける等の関係が築けている。	○	退居された方が入院されている病院や施設に立寄った際には、可能な限り声を掛ける等の配慮を行っている。また、退居後に再度入居申し込みをされる方や、退居後の近況報告をして下さる方もおり、関わりを継続出来ているケースも実際にある。今後もそのような関係を大切にしていきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のコミュニケーションや観察、ご家族様からの情報収集等により一人一人の希望や意向、どのような事にどう反応をするか等の把握に努めている。そして入居者様の思いや意向を踏まえ、食事やレク・行事に取り入れたりし、身近に出来る事から実現できる様努めている。	○	現在入居されている方は会話による意思疎通が可能な方々である為、一人ひとりとのコミュニケーションを深め、それぞれの思いや希望を把握し、日々の生活の中にとり入れ充実した生活を送って頂けるよう支援していきたい。また、日頃から何でも気軽に話せる関係作りにも努めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の書類や関係者からの情報収集・本人様・ご家族様からの聞き取り等により把握に努め、ホームにおいても、これまでの生活を出来る限り継続出来るよう工夫・配慮している。その人らしい生活を支援して行く為に、これまでの暮らしについての情報を活用し個別ケアの充実に繋げている。	○	入居後間もない方、他者との会話をあまり積極的にされない方など情報収集が充分出来ていないと感じる方もいる為、今後より一層の知る努力を続け、入居者様の今の状態・生活だけを見るのではなく、長い人生のいろいろな経験や習慣を知り、これからのケアに活かしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者様とのコミュニケーション・介助・観察・バイタルチェック・記録・申し送り等により、様々な面からの現状の把握に努め、ユニット会議で定期的に個別のケアカンファレンスを行なう他、何か変化があればすぐに対応したケアを提供出来る様心掛けている。	○	現状の正しい把握が、その時必要なケアは何かを知る事に繋がる為「今迄こうだったから」等の思い込みや決め付けはせず、常に変化を見逃さずに臨機応変な対応をしていきたい。また、総合的な把握には多くのスタッフの様々な視点による情報収集が不可欠な為、連携を密にしていきたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット会議、日頃の意見交換により全ての職員の気付きや意見を取り入れて計画を作成し、それに基づいたケアの実践をしている。また、日頃から入居者様・ご家族様の意見、希望を聞くようにしそれを計画に反映できるよう努めている。	○	今後も常に話し合いをもとに多くの意見やアイデアを計画に反映して行く。その際は入居者様本位の計画であるかを常に確認するよう努め、状態の変化に応じて計画の見直しを行う。また、日頃から入居者様やご家族様が意見を言いやすいような雰囲気作り、信頼関係の構築に努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	○	常に入居者様の変化やニーズを見逃さずに必要に応じた見直しを行う事で、現状に即した計画の作成に努める。見直しが必要な状況を見極める為に、日頃から細かな観察、正確な状況把握をしていく。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	○	入居様を様々な側面から見て、より具体的な個別記録にしていけるよう努める。個別の記録、情報の共有、それを基にした実践によって一人一人の個性や特徴を活かした個別のケアを行っていききたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	○	事業所側の対応とし様々な要望に応える心構えは出来ているが、まだ十分に要望等を引出せているのか判断が難しい為、今後も継続して関りを深める対応に努めていく。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	○	開設時より地域に根ざした感が実感としてあり、地域の方々からの呼掛けや、事業所側からのお誘いについて円滑な交流が行なわれるようになっていく。入居者様の意向の実現も地域の方々のご協力で実現する頻度が増加している。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	○	同法人で運営する他事業所のケアマネジャーとケース等について相談する機会があり、事業所の機能を十分活かし本人様のより良い生活について検討が行えている。今後も更に同様の取組みを継続していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	○	具体的事例がまだない為判断は難しいが、今後も運営推進会議内だけでなく、その必要性に応じ随時協働して頂けるよう関係を深めていきたい。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様・ご家族様の希望がある場合は、その希望の医療機関を受診し、それ以外は協力医療機関を受診し希望に添った適切な医療を受けられるよう支援している。	○	今後も入居者様・ご家族様の希望を取り入れ、適切な医療を受けて頂き健康状態を維持できるよう支援していく。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関を確保しており、医師・看護師は認知症への理解がある為適切な指示・助言をもらえる体制が出来ており、受診時に様々な配慮をしてくれている。	○	今後も現在の関係を継続していけるよう協力し、専門的なアドバイスをもらい、ケアに活かしていく。日頃から、気になる事や小さな変化等を報告したり指示を仰ぐ事で早めの対応をとり、入居者様の体調や状態の安定を図る。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関の看護師に訪問診療、受診の際に相談しアドバイスを受ける事で、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	○	今後も気軽に相談できる関係を継続し、連携を図っていく。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合、入居者様の日常の生活状況やケアについて情報提供や相談をし、また早期退院の為の話し合いや退院後の経過観察についてもアドバイスを受け、連携をしている。	○	病院関係者との連携により、状態が大きく変わったり本人様が不安定になる事をできるだけ防ぎ、退院後ホームの生活にスムーズに戻る事が出来るよう支援している。今後も早期退院に向け、連携して行く。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについて事前にご家族様及び本人様意向を確認する事に努めているが、時として思いの相違は何える。その場合についても専門的な立場から助言等させて頂く事で現在まで円滑にターミナルについてのご理解等が得られている。	○	今後、更にターミナルケアを望まれる方が増える事が予想される為、職員個々の知識や技術の向上に努め、いかなる場合においてもスムーズにターミナルケアが行える状態であるよう日々スキルアップに努めていく。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居者様の状態の変化に対して事業所としてできること・できないことを早期に見極め、かかりつけ医との連携により可能な限りの対応をしている。チームケア全般において職員個々の能力差を可能な限り縮める為、日々の業務内及び各種会議や研修の場を利用し知識、技術の共有が出来る様努めている。また、連絡事項等も正確に伝わるよう確認の徹底を図っている。	○	今後必要となってくる重度化や終末期に向けた支援に対し、チームとしての意識をより一層高めていきたい。チームケアの向上については様々な要素があり、個々の能力、職員間の声掛け、情報収集、情報共有その他にも多々あるが、これらが全て円滑に出来、十分な内容が伴う事でチームとして力を発揮出来るという事を今後も職員指導の一環として行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入退居時の精神的な不安やストレスを軽減できるように、本人様に関わる関係者と充分情報交換を行い、サポートしている。	○	今後もダメージを防止する為に、ご家族様や本人様に関わる関係者と連携し、支援して行く。また、本人様の立場や不安な気持ちを理解し、精神的な面での支援にも十分な配慮をして関わろう努める。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者様一人一人の誇り、プライバシーを守り常に本人様の気持ちに配慮した言葉かけ・対応をする様努めている。特に排泄の声掛けは近くでさりげなく行い、排泄に関する職員間の連絡も紙に書いたり、周りに分からないよう配慮している。	○	記録等はホームのテーブルで行なっている為、名前を伏せたり、入居者様が気にしなくて済むような工夫・配慮が必要。声掛けは排泄に関してだけでなく、体調に関することや本人様の行動を修正したり、促したりする際も必要以上に大きな声にならない様気をつけたい。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	食べたい物・行きたい所・してみたい事等の希望を出来るだけ表出して頂ける様働きかけ、日々の生活やレク・行事に取り入れる様努めている。また、認知度に合わせ、絵や写真・本・テレビ等を利用して情報提供し「自分はこれが好き・したい」という気持ちを汲み取る工夫をしている。	○	自分からしたい事や食べたい物などを積極的に表出する方と、こちらから働きかけないと自らはしない方がおられる為、入居者様個々の性格や能力を把握し、それに応じた働きかけをする事で、一人ひとりが希望の表出や自己決定が出来る場面を作っていきたい。また、ご家族様からの情報収集も行い、日々のケアに活かしていきたい。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人のペースを大切に、希望に添った過ごし方が出来る様心掛けている。共同生活の場である事もあり、食事・入浴等はある程度こちら側でペースを作らせて頂く事はあるが、その分ユニット全体がゆったりとした雰囲気になるよう配慮し、個々の余暇時には個人のペースで希望を尊重するよう努めている。	○	その人らしい暮らしを提供するには、まず一人一人が希望する過ごし方・生活ペースがどのようなものかを知る必要がある。各職員が入居者様とのコミュニケーションを深め、その人らしさと言うものを表出して頂ける様支援していきたい。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	好きな服を選んで頂いたり、外出時にはお化粧品をして頂く等をし、お洒落をする気持ちを忘れない様な支援をし、一人一人の個性を出せる様努めている。理容・美容は本人様・ご家族様の希望に合わせ、利用の支援をしている。	○	入居者様一人一人の好みを把握し、能力や状態に合わせ、その人らしさを引き出せるお洒落の支援をしていける様努める。ホームの中でも個性を活かして生き生きと暮らして頂けるよう支援していく。
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様一人一人の好みを把握し、献立に取り入れ食事作りの前や買い物前に希望を聞いている。準備や片付けにも参加して頂き、共に行い食事が楽しみなものになるよう働きかけている。	○	食事内容の工夫や声掛け、食事の際の席や雰囲気作りにも配慮し、また買い物には入居者様にも出来るだけ一緒に行って頂ける様努める。食事準備は出来るだけ多くの方に関わって頂けるようホールのテーブルで座って出来る作業を行うなどで、皆さんで楽しめる工夫をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物・おやつは好みの物を日常的に楽しめる様提供している。飲酒については、お正月・お祭り等の行事の際に少量を飲んで頂く事はある。喫煙についてはホームの方針として全面禁煙となっており、入居者様・ご家族様に説明し、理解を得ている。	○	それぞれの好みに対応した内容で提供する事で、本人様やご家族様の満足に繋がっている。今後も好みの物を状況に合わせて提供し、日常的に楽しめる様支援していく。
56	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄パターンを把握し、自立に向けた排泄支援を行なっている。おむつ使用者についても日中は極力おむつを外し、排泄パターンに基づいた排泄声掛け、誘導を行なっている。排泄状況の把握により、失敗やおむつの使用が減った方も多い。	○	おむつを出来る限り使用しなくて済むよう、また使っている方もその使用時間、頻度を少しでも減らせる様排泄の自立へ向けた支援を行なっていく。
57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間や順番は出来る限り、本人様の希望を取り入れ、くつろいだ入浴が出来る様支援し、曜日は決めず状況に応じて週2～3回は入浴を行なっている。拒否が見られる方には声掛けの仕方やタイミングを工夫し気持ちよく入浴できるよう働きかけている。	○	入居者様一人一人の希望に添った、気持ち良い入浴が出来る様今後も支援して行く。また、入浴の時間は本人様とゆっくり話し、コミュニケーションを深める機会に出来るよう接している。
58	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者様それぞれの生活習慣やその日の状況に応じて安眠へ繋げる支援をしている。また、一人一人の生活リズムや体調・精神状態に合わせ、日中も居室やソファで休んで頂く等の休息の支援を行っており、個別の対応が出来ている為、今後も継続していく。	○	今後も一人一人の睡眠パターンを把握し、安眠できる支援を行っていく。夜間不眠傾向の方には、日中の生活状況や夕方からの本人様の様子等をよく把握し、不眠に繋がる要因の除去・改善や、安心して休めるような働きかけの工夫をする。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り・掃除・洗濯物仕分け等の家事参加、畑仕事、花の手入れ、ポスター作りや歌・踊り・縫い物等、一人一人の個性や特技を活かした役割、楽しみ事、活躍できる場面の提供をし、日々張り合いや喜びを感じられる様支援している。	○	一人一人の得意な事、輝ける場面を知り、それぞれの役割・楽しみ事を提供しながら、個性豊かにその人らしい生活を送って頂けるよう努める。また、そのような支援を継続する事で、入居者様がお互いをよく知り、認め合い、関係が深まっていくよう努める。
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様による金銭管理は難しいが、定期的に買い物に出かける機会を作り、希望に応じてお金を使える様支援している。本人様より希望のある場合はご家族様と相談の上、本人様にお小遣いを所持して頂いているケースもあり、それにより安心して頂いている。	○	買い物に出かけたときには、本人様の財布にお金を入れ、自分で支払いをしてもらい安心や自信に繋がる支援をしている。
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	暖かい時期は散歩や近所のスーパーへ買い物に出かけ、また地域の行事等に積極的に参加しホームに閉じこもらない工夫をしている。ホームの畑や花壇には日常的に水遣りや草取り等を出ている。本人様からの希望がない方にも、さりげなく声をかけ外へ出る機会を作るよう努めている。	○	日常的に外に出る機会を作る事で、生活意欲や心身の活性化に繋がる為、日々自然な形でそのような機会を多く作っていききたい。冬場は比較的ホームに閉じこもりがちになる為、安全に配慮しながら出来るだけ外出の機会を作る様努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一人一人が行ってみたい所を把握するよう努め、行事立案の際に希望を取り入れたり、ご家族様と共に外へ出かけて頂いたりしている。	○	日頃のコミュニケーションの中で、生まれ育った場所や家族の住む遠方等へ行きたいとの希望が聞かれている為、今後は可能な限り個別対応をしていきたい。また、行事にはご家族様の参加もして頂き共に出かけられる機会を多く作りたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は入居者様の能力に応じて、書く時に見守り・声掛けをしたり、代筆、投函の代行をする事で日常的に手紙を出せる様支援している。電話は取次ぎの介助、見守り、代わりに話す等の支援をしている。その際は、いずれもプライバシーに配慮するよう努めながら、外部とのやり取りを継続できるよう支援している。	○	日常的にご家族様や友人と電話をしたり、手紙を書く事で、本人様の安心感、満足感に繋がっている。今後も要望があった場合にはプライバシーに配慮しながら、能力に応じた必要な支援を行っていく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時には一緒にお話をしたり、家庭的でゆったりとした雰囲気作りに努めている。ご家族様や馴染みの人が気軽に訪問でき、入居者様と共にくつろげる様な雰囲気作りを目指しており、いつでも歓迎の気持ちで迎える様にしている。	○	今後も居心地良く過せる雰囲気作りに努め、気軽にコミュニケーション・情報交換等が出来るような関係作りをしていく。入居者様が馴染みの人と楽しく過ごせるホームを目指していく。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営及び全ての職員が正しく理解しており、身体拘束をしないケアの実践をしている。	○	今後も身体拘束のないケアを実践して行く。禁止対象となる行為はもろろんのこと、言葉や対応によって本人様の自由な生活を制限したり、精神的な圧迫を与える事も拘束に繋がると捉え、日々のケアに取り組んでいく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム入口及びユニット入口はやむを得ず施錠している。ご家族様・入居者様に対し、理由は説明し了承を得ている。(外部からの進入もある等)	○	施錠については、危険の回避(外部からの進入など)等をするために行っている。その中で、入居者には施錠をしている圧迫感を与えないように、外に出たい時等は、希望にそうように支援している。ただ、職員が不足している時間などは、対応が難しい時がある。今後も入居者が圧迫感を感じないような支援をしていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は調理や記録等をしている時も、常に入居者様を見守れる様気をつけ、その様子を把握しながら声掛けや、介助が必要な時には素早い対応が取れる様努めている。また、安全を確保しながら自立した生活が送れるよう環境整備にも工夫・配慮している。	○	職員同士声を掛け合い、それぞれの持ち場に責任を持つようにし、一箇所に固まらないでユニット全体の様子が把握出来るように努める。入居者様には常にさりげない対応を心がけ、安全確保を優先する余り本人様に心理的ストレスを与える事のないよう十分気をつける。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬・洗剤・刃物等は、使用時以外は決まった保管場所に保管する事になっており、そのとおりに実行している。個人の持ち物については、一人一人の状況に合わせて管理方法を検討し、対応している。(爪切り・はさみ・裁縫道具・食器等)	○	今後も一人一人に応じた対応をし、安全を確保して行く。使用の際危険と判断できる物も、こちらの考えで一方向的に預かるのではなく、安全に使える別の物に代えたり、本人様と話し合っって納得の上預かる等の対応を検討していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日頃から一人一人の状況に応じ、起こりうる事故を想定して、それを未然に防ぐ為の対応をしている。また、事故が起こった場合は状況・経過・改善策をまとめている。改善策は職員間で話し合い、事故発生の要因を詳しく検証した上で、内容を検討し再発防止に努めている。	○	事故再発を防止できる様、事故報告書を活用して行く。また、ヒヤリハット事例を基に事故を未然に防ぐ為の対応策を練る。このような書式の活用により、職員の事故防止への意識は以前に比べ高くなっている為、今後も継続していく。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に救命講習や避難訓練を実施している。また、緊急時の対応マニュアルがあり、全職員がその内容を熟知している。	○	今までの事故や急変等の事例を基に、より具体的な対応マニュアルを作成して行く事で、緊急時に職員が的確な判断をしスムーズに行動、連携できるよう努める。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練の実施により災害対策について全職員が周知している。また、訓練内容についても都度状況を変え様々なケースを想定し実施している。	○	近隣の方々の協力体制についても運営推進会議を通して理解が深まってきていると感じる。今後更に訓練の中で緊張感を持ち、実際の災害を想定した様々な状況下での職員対応を養っていききたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時及び都度の連絡の中でもリスクについても説明を行っている。自立支援を推進していく上でグループホームの機能を理解して頂けるよう努めており、現状としてご理解は得られている。	○	自立支援を行う上でのリスクは特にプライベート空間で発生するケースが殆どであるが、入居者個人様様の生活スタイル等を把握し安全な環境整備に努める事で可能な限りリスク幅を軽減していきたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタル測定・観察により、小さな変化も見逃さず早期発見、早期対応できるよう努め、変化や異常のサインは記録し、他職員へ速やかに申し送り、その後の状態観察・対応に繋げている。	○	今後も迅速に適切な対応を取れる様努める。自ら訴える事の出来ない方については、特に注意して観察して行く。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個人様様の服薬内容について全職員が把握している。研修課題としてもこの内容に取組み、全職員が報告書として個別の薬内容について確認しており、その報告書を自らの資料としている。	○	服薬管理については業務の一流れとして捉える事なく、複数の職員が確認出来、責任の所在についても明確としている。また、服薬方法も法人で取り決めた統一对応を行っている。今後更に処方箋変更時等に十分注意し対応継続していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表を用いての排便状況の把握、その原因や影響の理解に努め、食事・運動の両面から働きかけにより自然な排便を目指している。状況により下剤の調整を行なっている。そのような取り組みにより便秘の症状が改善されたケースも多い。	○	今後は便秘の原因、その及ぼす影響をより深く理解出来るよう努め、食事・運動への取組みにより便秘せず、自然な排便が出来るよう支援して行く。また、自立した方の排便状況の把握も出来るだけ正確に出来るよう努め、早めの対応を心掛ける。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	介助を要する方には、毎食後の義歯洗浄・歯磨き・うがいのケアを行い、自力で出来る方には声掛け・見守り、時々手伝って汚れを確認する等をしている。また、夜間はポリドント洗浄をし清潔保持に努めている。	○	今後も一人一人の能力・状態に応じたケアを行い、清潔保持に努める。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食べる量・栄養バランスを考えた食事提供を行い、一日の食事量・水分量を記録し、摂取状況の把握に努め、状態に応じた支援をしている。また、食事や水分摂取に注意が必要な方については、主治医と連携し、状況報告やアドバイスを受ける等している。	○	糖尿病の方には主食少なめで提供、水分摂取に制限がある方にはストレスにならないような管理、支援をする、咀嚼能力低下、むせ込み等のある方には刻み食提供等の個別の対応を行なっている。今後も一人一人に合わせた対応を継続して行く。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症対策に関するマニュアルや資料が配布されており、それに基づいて予防の為の実践をしている。また、入居者様には毎年インフルエンザの予防接種を受けて頂いている。	○	今後も感染症に関する研修会等の参加により情報収集を行い、その内容を職員間で共有する事で予防に努めていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所用品等は毎日漂白し、清潔・衛生を保っている。食材はこまめに買い物に行き、常に新鮮で安全な食材を使用し、冷蔵庫内は定期的に点検・整理している。	○	今後も衛生管理を徹底し、食中毒の予防に努める。入居者様と共に調理や盛り付けを行なうことが多い為、手洗い・消毒の徹底やエプロンの着用等もして頂き衛生管理を行なっている。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の草花を植えたり、また日頃から周囲の環境を綺麗に保つようにし、親しみやすく安心して出入りできるような家庭的な雰囲気を作る様心掛けている。	○	今後、里の家がどういった場所であるか、どんな事を行っているのかなどを地域の方々に知らせていけるような取り組みを行っていく。運営推進会議にて、GHとは？と認識が低い為、説明会を行ったほうが良いと意見が上がり、町内会の福祉委員会に参加させて頂き、簡単ではあるが、GHの説明、認知症の説明などを行ってきている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は日頃より清潔の保持に努め、装飾等は過度にならない程度に生活感・季節感を取り入れて、明るく家庭的な雰囲気にし居心地の良い空間作りに努めている。また、照明・音の大きさは快適なものにする様心掛けている。空間作りにおいては常に生活の主体である入居者様の目線で見えよう配慮している。	○	入居者様のほとんどが、居室よりホールで過ごす時間が長く、くつろいでおられる姿がよく見られる。今後も入居者様の意見をとり入れながら、入居者様にとっての快適な空間作りを工夫して行く。また、飾りつけや環境整備を共に行う事で、入居者様の能力を活かし自立支援をしながら居心地のよい生活の場を作っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は広く・明るく、入居者様数名でも、またお一人でもくつろげる様に複数のソファやテーブルを配置の仕方に配慮し、設置している。	○	入居者様それぞれの生活スタイルや、他者との関わり方等をよく観察・把握し、皆さんにとっての過しやすい空間を作れるよう努力して行く。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前より使用していた馴染みの家具や生活用品を持ち込んで頂き、本人様・ご家族様と相談しながら一人一人の個性が活かされた居心地良い居室となるよう工夫をしている。	○	今後、生活用品や家具等を購入する際には本人様の好みや習慣等を取り入れ、その方らしい居室・生活を提供して行く。また、そのような取り組みにはご家族様にも積極的に関わって頂けるよう日頃からコミュニケーションを深めていく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気には常に気を配り、暖かすぎず寒すぎず、その季節に応じた適温を保つようにし、また臭いや空気よどみにも気をつけている。また、入居者様の状況・居室の位置による室温差にも配慮し調整を行なっている。	○	入浴後、就寝時等には特に温度・湿度の調整に気を配っている。各居室にも温湿度計を設置、ホールでは加湿器・扇風機・エアコンも使用している。温度やにおいに敏感でない方には、さりげなく確認をし快適な状態を保てるよう支援している。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在事業所内には必要箇所に手摺り等が設置されており安全な環境であると言えるが、身体介助の必要性がある方が多い為、設備を使用するより職員対応によるものが殆どである。	○	今後、入居者様個々の身体状況や認知力に合わせた環境整備に努め、入居者様が自身の能力を活かして安全に自立した生活が送れるような環境を目指したい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗を招くような状態、その要因となるものを把握し、その様なものが認められる場合はすぐに状態を改善できるよう対応している。わかる力、混乱や失敗の程度は日々変化する場合もある為、その都度状況を見極め対応できるよう努めている。	○	今後も一人一人の分かる力を活かして、自立して暮らせるよう環境作りに配慮して行く。また、入居者様の状態、能力の変化に応じてその都度環境を改善していく事で、自立心や自尊心を保ちながら暮らせるよう支援していく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの敷地内に畑があり、苗植え・水まきや野菜の収穫等に入居者様も参加している。畑や花壇作りは苗や種を買う事から入居者様と共に行っている。また、ホームの周りの花壇を見ながら散歩を楽しむ等している。	○	今後もホームの外周りや空間を活かして、入居者様が楽しめる活動を多く取り入れていく。暖かい時期にはホームの駐車場を利用して、バーベキューや花火大会等の行事も行っているが、今後も継続していく。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない



項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)